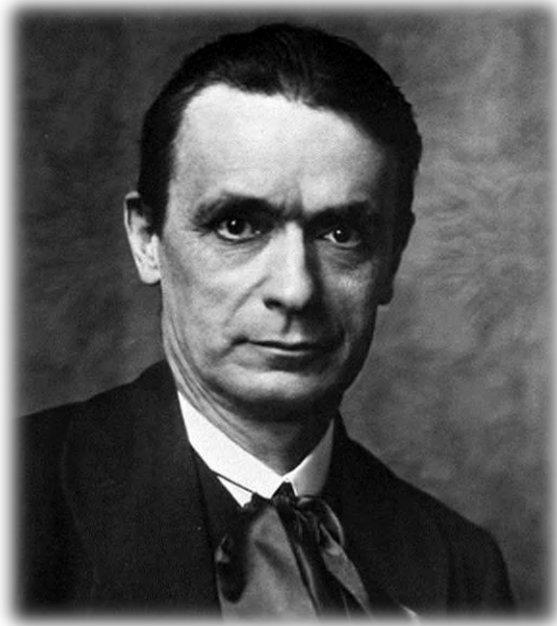


第37回 個性づくりテーマ展示

# シュタイナーの幼児教育



シュタイナー教育とは、オーストリアの哲学者ルドルフ・シュタイナーが提唱した教育思想です。シュタイナーは1861年に現在のクロアチアで生まれました。ウィーン工科大学で哲学を学んだあと、「人智学」（アントロポゾフィー）という人間観、世界観を確立しました。その哲学は、現在も教育だけでなく、農業、医学、薬学、社会学、建築、芸術、自然科学などあらゆる分野で実践されています。

1919年、ドイツに「自由ヴァルドルフ学校」が開設されたのち、シュタイナー教育を行う幼稚園や学校は世界各地に広がりました。そこでは、数週間にわたり同じ科目のみを学ぶ「エポック授業」や、体を使っていろいろな表現を行う「オイリュトミー」、集中力を養うために渦巻などの線を描かせる「フォルメン」など、独特な教育法が取られています。

今回はシュタイナー教育についてご紹介します。

**展示期間** 2017年7月1日（土）～8月24日（木）

**展示場所** 鷺宮図書館 5階個性展示コーナー

中野区立鷺宮図書館  
中野区鷺宮 3-22-5 Tel 03-3337-1044

## ◆自由への教育◆

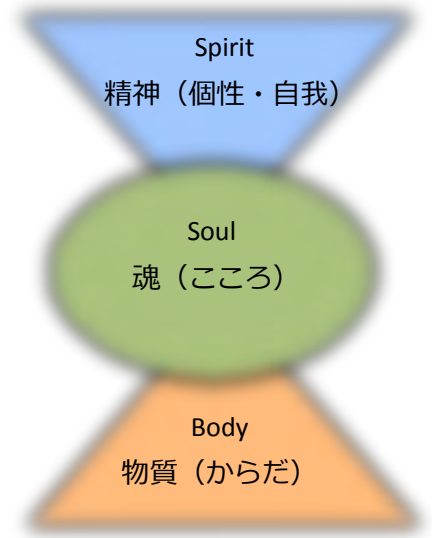
シュタイナー教育は「自由への教育」と呼ばれています。それは、勝手気ままな「自由」ということではなく、社会や他の人たちとよい関係を持ち、自分の責任をしっかりと果たし、自分の意志で人生を歩んでいけるという意味での「自由」です。

## ◆人間に対する考え方◆

シュタイナーは、人間は「目に見えるもの=からだ」と「目に見えないもの=精神とところ（魂）」で成り立っていると考えました。

ひとはみな何かの課題や使命を持って生まれてくると考え、その使命を果たすためにはバランスのとれた「精神」と「ところ（魂）」と「からだ」を持つことが必要だとしました。ひとは誕生から成人までに、それらを育てていきます。精神の部分は「天」とつながっていて、この世で生活し成長を続けていきます。からだは「地」とつながっていて、生まれたときは親からの遺伝の影響を受けています。このふたつはいわば変えることができない部分で、生まれてからどう生きていくか、ところ（魂）がこのふたつを結び付けていきます。

【シュタイナーの人間観】



## ◆七年期説◆

この人間観をベースに、シュタイナーは、人間は誕生から成人するまでの間、7年ごとに「物質（からだ）」「生命」「感情」「自我」という順序をたどって成長すると考え、子どもには発達にふさわしい時期があるとししました。

0～7歳 第1・七年期	物質体 (からだ) ↓ 生命体	<b>意志が育つ</b> からだを作ることが大きな課題。からだに結びついた「意志」の教育の時期。手本である大人を模倣する。
7歳～14歳 第2・七年期	(からだを成長させる) ↓ 感情体	<b>感情が育つ</b> 世界が美しいと感じられるような体験や学びが必要。「個」としての自分を確立し始める。
14歳～21歳 第3・七年期	(快・不快、本能) ↓ 自我 (わたし)	<b>思考が育つ</b> 論理的に「思考」することが可能となる。自分自身が周りの世界に興味を持って、意識的に関わっていく。

誕生すると肉体は母親から独立して自分のものになります。7歳まではからだが一番よく育ち「生命体」が自分のものになります。14歳までは感情が育って「感情体」が自分のものとなり、周囲の世界と「わたし」との違いを意識するようになります。21歳で「自我」がはっきりと独立して、ひとりの精神的な人間として成長していきます。

## ◆4つの気質◆

人の本質の部分である個性をきちんと見ることが、人間を育てる基本になります。その本質が振舞いとして現れたものが「気質」です。シュタイナーは気質を4つに分類しました。誰もがこの4つの気質をあわせ持っていますが、どれかに傾き、その性質の傾向を示しています。本来の気質は7歳以降に、よりはっきりと現れます。そして大人になるにつれ、気質のバランスをとっていくようになります。

- 胆汁質 エネルギッシュ。意志が強くて行動力があり、正義感にあふれています。議論好きでリーダーシップがあり、チャレンジ精神も旺盛で、達成感を得ることを大切にします。子どもっぽい熱を持っていて、融通が利かないタイプでもあります
- 多血質 陽気で、チョウチョのように興味に任せて飛び回ります。感覚的で飽きっぽい性格ですが、情報通でいろいろなことを知っています。何があっても気にしません。ものごとを深く考えない傾向があります。
- 粘液質 頑固。穏やかでのんびり屋で変化を嫌います。自分のペースを崩すことができず、こだわりが強く、時間内に何かを終わらせることが苦手です。興味のあることに関しては、飽きることなく続けられます。またお手本に沿って、しっかり仕上げるのが得意です。社交的で明るく、誰とでも仲良くなれます。
- 憂鬱質 変化を嫌い、物事に深く関わり、自分の中にも深く入り込みます。自分の世界を大切にし、ひとりでいる時間をたくさん必要とします。人と関わるのが苦手ですが、研究者としての力があります。

重要なのは、子どもがどの気質であるかを特定することではなく、誰にも「気質」という個性があることを理解することです。何かを上手くできなかつたり、わがままやトラブルが多いようなときは、「この子の気質がそうさせるのだろう。同じきょうだいでも気質の違いがあるんだ。」と思い、少し距離を置いて子どもを見つめてみましょう。それぞれの気質には、マイナス面と表裏一体のプラスの面があります。子ども本来の気質を理解し、上手に出していけるようにしてあげると、その子らしさを伸ばしていく事ができます。



出典：『おうちでできるシュタイナーの子育て』クレヨンハウス編集部／編 クレヨンハウス  
『シュタイナーの子育て30のヒント』岩橋 亜希菜／著 河出書房新社  
『0～7歳を大切に育てるシュタイナーの子育て』月刊クーヨン編集部／編 クレヨンハウス

## おすすめ展示図書



『シュタイナーの子育て30のヒント』

岩橋 亜希菜／著

河出書房新社 2015

請求記号 379.9 イ

シュタイナーの考えに基づいてひとの成長をとらえると、子育てに迷った時に答えが見つかるかもしれません。子育てや親自身の成長に役立つ30のヒントを紹介しています。



『おうちでできるシュタイナーの子育て

「その子らしさ」が育つ0～7歳の暮らしと遊び』

クレヨンハウス編集部／編著

クレヨンハウス 2009

請求記号 379.9 オ

シュタイナーの基本的な考え方と、生活のさまざまな場面で役立つシュタイナー流の子育てを、分かりやすく紹介しています。



『今日からできる7歳までのシュタイナー教育』

加納 美智子／著

学陽書房 2006

請求記号 376.1 マ

シュタイナー幼稚園の先生が、実際の幼稚園の生活を紹介し、おうちでできるシュタイナー的子育てを教えてください。子どもを見守るやさしい心があふれる本です。

# 展示図書リスト

このリストのほかにも多数取り揃えております。ぜひ展示コーナーへお立ち寄りください。

書名	著者名	出版社	請求記号	出版年
シュタイナー教育 新訂版	クリストファー・クラウダー／著	イザラ書房	371.5 ク	2015
赤ちゃんからのシュタイナー教育	ラヒマ・ボールドウィン・ダンシー／著	学陽書房	379.9 ボ	2014
人間理解からの教育	ルドルフ・シュタイナー／著	筑摩書房	371.5 シ	2013
シュタイナー学園のエポック授業	シュタイナー学園／編	せせらぎ出版	376.4 シ	2012
シュタイナー学校の数学読本	ベンクト・ウリーン／著	筑摩書房	410.7 ウ	2011
プラハのシュタイナー学校	増田 幸弘／著	白水社	371.5 マ	2010
これからのシュタイナー幼児教育	入間 カイ／著	春秋社	376.1 イ	2010
シュタイナーの楽しい子育て	広瀬 牧子／著	サンマーク出版	379.9 ヒ	2009
乳幼児のためのシュタイナー保育	バーナデット・ライチェル／著	水声社	376.1 ラ	2009
ママのためのシュタイナー教育入門	ドーリス・シューラー／著	春秋社	379.9 シ	2008
気質でわかる子どもの心 シュタイナー教育のすすめ	広瀬 牧子／著	共同通信社	371.5 ヒ	2006

## 逆向きの算数



私たちの慣れ親しんだ算数は、「 $7+3$ は？」と問われ、答えは「10」でなくてなりません。ひとつの決まった正解に、どれだけ早くたどり着くかが要求され、子ども達は「間違えてはいけない」と緊張もしてしまいます。

それに対して、シュタイナー教育を実践している学校では、「10は何からできている？」と問われます。ある子は「 $7+3$ 」と答え、別の子は「 $13-3$ 」と答えるかもしれません。「 $3 \times 2 + 4$ 」や、「 $1+1+1+1+1+1+1+1+1+1$ 」という答えもあります。同じ10という数字の中にたくさんの可能性が開かれている、ということ学びます。

このような学び方をすると、リラックスして自分なりの答えを探ることが出来ます。決められたひとつの正解に素早くたどり着くのが目的ではなく、たくさんの可能性が開かれていく、いろいろな組み合わせに驚いてゆくことを学びます。

出典：『シュタイナー入門』西平 直／著 講談社

『シュタイナーの子育て 30 のヒント』岩橋 亜希菜／著 河出書房新社

## シュタイナー教育について調べるには



図書館の資料の調べ方、インターネットを活用した調べ方についてご紹介します。

### 1 【情報探索のキーワード】 効率的な情報検索には、適切なキーワードが必要です。

シュタイナー	人智学	アントロポゾフィー
気質	七年期	ヴァルドルフ学校
オイリュトミー	エポック授業	フォルメン

### 2 【基本的な情報源】 辞書・事典類でテーマについて基本的な情報を入手しましょう。

資料情報	請求記号	配架場所
シュタイナー用語辞典	115.7 シ	中央図書館
教育思想事典	R371.0 キ	中央参考室
現代用語の基礎知識 2017	031 ゲ	鷺宮図書館6階

◎中央図書館参考室では、子育てや教育に関する統計や白書を所蔵しています。

資料情報	分類
子ども・子育て白書 平成24年版 内閣府／編	369.4 コ
保育白書 平成16年版 全国保育団体連絡会／編	R376.1 ホ
文部科学統計要覧 文部科学省／編	R370.5 モ

### 3 【図書を探す】

#### ●館内所蔵を探す

◎テーマの棚に行って探す

図書館の本は主題ごとに棚に並んでいるので、請求記号の最初の数字を参考にして同じ主題の本を探すことができます。

分類	分野	分類	分野	分類	分野
371.1	教育哲学	376.1	幼児教育	379.9	家庭教育

◎中野区立図書館利用者用検索機（OPAC）で探す。

資料のタイトル、著者名、出版社名などから、中野区立図書館所蔵の資料を検索できます。

中野区立図書館のHP <http://www3.city.tokyo-nakano.lg.jp/tosho/>

中野区立図書館HP（携帯版） <http://www3.city.tokyo-nakano.lg.jp/tosho/i/>

●東京都内公立図書館で所蔵されている図書を探す。

◎「東京都立図書館統合検索」 <http://ufinity01.jp.fujitsu.com/metro/index.php>

●国内で刊行されている図書を探す。

◎「国立国会図書館サーチ」 <http://www.ndl.go.jp/>

◎「Books.or.jp」 <http://www.books.or.jp/>

国内で発行された入手可能な書籍が検索できます。出版社のホームページやオンライン書店へのリンクもあります。

#### 4 【オンラインデータベースで調べる】

中央図書館では、参考資料コーナーの利用者開放インターネット端末で、以下のデータベースをご利用いただけます。

データベース	収録期間と主な内容
官報情報検索サービス	1947年5月3日から当日までの官報記事の検索
日経テレコン21	1975年からの日経4紙（経済・産業・金融・流通）の記事
聞蔵Ⅱビジュアル	1879年から1999年までの朝日新聞紙面イメージ 1985年から当日までの新聞の記事 ほか
MAGAZINE PLUS	一般誌・総合誌の雑誌記事検索や学術論文
WHO PLUS	歴史上の人物から現代の人物まで約32万人のプロフィール
D1-Law.com	判例情報、法律の改廃記録、法律判例文献情報 など

#### 5 【インターネットを利用する】

●中野区の子育て関係の情報を知る

◎中野区子育て支援情報 <http://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/guide/003/009/>

◎暮らしのガイド「子ども・教育」

<http://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/guide/003/index.html>

●シュタイナー教育について調べる

◎一般社団法人日本シュタイナー幼児教育協会

<http://jaswece.org/O1/index.html>

◎日本シュタイナー学校協会

<http://waldorf.jp/>


◎シュタイナー教育教員養成講座

<http://steiner-jp.net/index.html>

◎NPO 法人ルドルフシュタイナーハウス（日本アントロポソフィー協会）

<http://www.npo-asj.jp/index.html>





## シュタイナー教育で考える、乳幼児を育む4つのポイント

シュタイナー教育では、子どもの力が「内側から育まれる」ことを大切にしています。なかでも0歳から7歳までの乳幼児期は、本当の意味での人間らしい感性、生きていく心（意志）をゆっくり、ゆったり育てていくことが必要であるとしています。

### 子どもは身近な人をまねして育つ

幼児期のこどもは全身が感覚器となっており、自分の目の前で起こっていることをすべて受け入れてしまいます。大人が意識的に行う事だけでなく、無意識的なもの（くせ、しぐさ）や、大人の心の内面までも模倣します。

幼児期の子どもたちは、模倣を通してさまざまなものを吸収していきます。日常生活の様々なことを、その方法を教える前に、まずは大人が楽しく、正しくそれらの行為をして、子どもがそれを自然にまねしようとするようにしていきましょう。

### 静かで安心できる場所が子どもの心を育てる

子どもを取り巻く人的、物的すべてにおいて、安心、安全で豊かな「環境」を作り出すことがシュタイナー教育の基本です。

子どもの聴覚は大人のレベルとは違い、ちょっとした周りの声でも敏感に反応します。子どもたちと会話する時には、腰を落として子どもと同じ目線になり、子どもの耳元でささやく程度で十分なのです。すると子どもも同じレベルで落ち着いた反応をしてくれます。大声で子どもに向かって叫んだり大きな音を立てたりすると、子どもは興奮して、平安な心の状態を見失ってしまいます。

### 知育よりからだを育てる教育を

シュタイナーは幼児期を「からだを育てる時期」と言っています。また、早期の知的教育は子ども本来の創造力を阻むものになります。文字や数などの「思考」をかきたてる教育は、幼児期にはまだ必要ありません。昔ながらのわらべ歌を歌ってあげたり、童話の語り聞かせをしてあげて、充分眠り、たくさん食べ、たくさんからだを動かすことが大切です。

### リズムの大切さ

乳幼児期は“すべてが模倣”なので、この時期には“よい生活のリズムと繰り返し”が大切です。とくに1年のリズム、1週間のリズム、毎日のリズムとその繰り返し（流れ）が子どもの成長に大きく影響します。家庭では、早寝早起きを基本にした規則的な毎日を繰り返すことで、子どもの心とからだのバランスよく育ちます。